

「報告書」発行によせて

関西大学教授

関西大学探検部長

杉原弘人

関西大学アマゾナス踏査隊は京都産業大学天鷲良雄教授を隊長に探検部熱帯班の松本洋、津田僚一、藤本幸一の諸君で結成され、1972年3月、松本隊員が先発隊として出発し、南米ブラジル国アマゾナス州マナウス市に向かい、ついで5月、津田、藤本隊員が後発隊として日本を発ち、天鷲隊長と合流してアマゾナス州最北部ネグロ河支流、デミニ河最上流流域においてヤノマム族の人類学的研究を行なった。1973年3月、1カ年余にわたる調査を終わり、貴重な資料と予想外の成果をもって全員無事帰国し、今度、その成果を報告することになったことは誠によろこばしいことである。

踏査隊の調査地域は隊員が日本人としてはじめて調査した未開の地域で、その調査報告は日本の学会で高く評価されている。また、この調査を通じて、ブラジル・日本両国の国際親善に貢献したことも忘れる事はできない。

隊員が見聞し、体験したことを公にすることは今後、探検部の活動と発展の上に重要なことであるばかりではなく、この分野に興味をもつ人々にも貴重な参考資料となることと思う。

踏査隊が1カ年余をかけて調査したことを、このまま終わらせる事なく、今回の結果を基礎として第2次、第3次の踏査隊を探検部より派遣したいと考えている。

今度の踏査隊の派遣に当たり学内外の多くの方々から物心両面にわたり多大なご援助をいただいたことに衷心より厚くお礼を申します。また踏査隊が立派な成果をあげることができたのはFUNAI(インディオ保護局)、NTM(ニュートライプミッション)、読売新聞社のご協力によるものと感謝の意を捧げます。